

きょうちゃんパパ & ママの近況報告

- 平成 18 年 9 月 第 3 回チャレンジドフォーラム inSAGA 出席 (唐津市)
- 平成 19 年 3 月 SAKURA にて「古川康マニフェスト 2007 を聴く会」
(SAKURA とは 平成 17 年 4 月 大和町に開所した 作業所 (障害福祉サービス事業) です。主に知的に障がいのある方の生活や就労等の支援をすることであります。近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。)
- 平成 19 年 6 月 佐賀県社会福祉施設経営者協議会「研修会」出席
- 平成 19 年 6 月 全国社会福協議会 全国社会就労センター協議会主催
「工賃倍増計画支援事業」実践研修会 (東京) 出席
- 平成 19 年 7 月～ 8 月
佐賀県授産施設協議会 平成 19 年度高校総体販売事業
- 平成 19 年 9 月 第 47 回 九州地区手をつなぐ育成会佐賀大会 (佐賀市)

きょうちゃんパパの編集後記

早いもので、川副に来てからはや 8 年。特にご近所の皆さんには、きょうちゃんの「家から脱走」事件や「お風呂での怪しげ歌声」についてご迷惑をおかけしております。

川副町に来たときには 保育園生だった「きょうちゃん」も、お蔭様で中学生になりました。現在は、塩田町の佐賀県立うれしの特別支援学校の 1 年生ですが、そのため「きょうちゃん」とママの 2 人は 武雄市の祖父母の家に移りました。(週末や夏休み等は川副町に帰っています)

「きょうちゃん」は、知的障がいと「自閉症」の 2 つを併せ持っています。「自閉症」というと、精神的な病気や引きこもり等の症状と間違えられていましたが、そうではなく、これは生まれつきの脳の障がいです。そしてこれは約 700 人に 1 人の割合で出現すると言われていいますので、そんなに稀ではありません。女性より男性に多く出現し、その比率は 3 対 1 と 4 対 1 とも言われています。今では世間に正しく理解され、特に川副町の皆さんや武雄の皆さん、関係者の皆さんと、多くの方々に「きょうちゃん」を良く知って頂いて、また親しくしていただいて大変感謝しています。

私は大和町に作業所を立ち上げ、専門職員と力を合わせ働いておりますが、これからもハンディを持つ方とご家族のため、我が子のため、地域福祉の一翼を担っていくつもりです。今後もどうぞ よろしく願います・・・
きょうちゃんパパでした 平成 19 年 9 月 吉日

かじかわ きょうすけ
こんにちは 梶川 京祐 です



平成 19 年 9 月 第 6 回きょうちゃん便り

川副町の皆さん、関係者の皆さん、日ごろお世話になっております。お変わりなくお過ごしでしょうか？ 1 年ぶりの「きょうちゃん」便りです。僕 (梶川 京祐) は、5 歳から川副町で暮らし、現在は今年開校した「佐賀県立うれしの特別支援学校」の中学 1 年生になりました。“にきび”ができるお年頃となりましたー (悩)。

おかげさまで 中学生になった きょうちゃんは、今年の 4 月から「うれしの特別支援学校」で学び、寄宿舎で社会生活を送っています (寄宿舎は月曜日から金曜日)。先生も環境も とっても素敵な学校です！最初は慣れないのか、ご飯がすすまず 4 キロほど痩せましたが、今では 体重も増え、毎日元気に過ごしています。学校と寄宿舎は楽しく、食欲も旺盛です。そして、金曜日ママのお迎えの日には、学校が終わると ずっと 寄宿舎の玄関でママを待っている きょうちゃん でした。



佐賀県立うれしの特別支援学校入学式 (H19.4 月)



運動場からみた 寄宿舎 ↓



「がんばれ共和国」in 九州に参加しました！ 平成19年8月25日～27日



阿蘇（熊本県）いこいの村にて

サマーキャンプ「がんばれ共和国」は、難病の子ども支援ネットワークが主催するものです。毎年全国各地5箇所で開催され、キャンパーと家族そして多くのボランティアで構成されています。僕は友達とご家族と、13名で参加しました！



作製したステンドグラスを持って記念撮影。ボランティアで参加された大学の先生（右）と。

きょうちゃん作 ステンドグラス
がんばれ共和国のステンドグラス教室で作りました。3位に入賞しました。ボランティアの皆様、本当に有難うございました。



梶川ファミリーの食事風景。特別ボランティアで参加された支援学校の先生（中央）と。←

難病と闘う力蓄えよう!! サマーキャンプ「がんばれ共和国」始まる 阿蘇市

国指定の難病など、重い病気を抱えた九州各県の子どもたちが参加するサマーキャンプ「がんばれ共和国in九州」が二十五日、二泊三日の日程で阿蘇市蔵原の阿蘇いこいの村で始まった。

「難病の子ども支援九州ネットワーク」(本部・福岡市、吉嗣文成代表)が、子どもたちに、病気と闘う力を蓄えてもらおうと毎年開いており、十三回目。阿蘇市では昨年に続き四回目。筋ジストロフィー、二分脊椎(せきつい)症など、重い病気や障害を持つ子ども二十四人が参加した。

開会式には、家族や支援する医師、学生ボランティアなど約百五十人も加わり、吉嗣代表が「子どもだけでなく、家族も自然の中でリフレッシュしてほしい」とあいさつ。岡健斗君(15)と水野ひかりさん(12)＝ともに福岡県＝が共和国大統領になり、「友達をたくさんつくらう」と呼び掛けた。早速、自己紹介ゲームなどで交流、会場は拍手と笑いに包まれた。

手芸や陶器絵付けの教室、コンサート、交流会などが開かれる。(長崎恒作)
(熊本日日新聞 2006年8月26日付朝刊)

「がんばれ共和国」では、ボランティアを募集されています。詳しくは、難病の子ども支援全国ネットワーク <http://www.nanbyonet.or.jp/> で ♪ やってみようよ！ボランティア*

うれしの特別支援学校 運動会

逃げるの早い！が、運動会では走らない…



きょうちゃんの「がばいばあちゃん」も参加



親の玉入 パパ ひっし！（汗）



休憩時間 担任の先生（右）と

障害者自立支援法 福祉サービスの新体系と相談事業について

現在の福祉サービスは、平成23年ごろまでに新しい体系へと移行していきます。例えば現在「通所授産施設」といわれる施設は、自立訓練・就労移行支援・就労継続（A型＝福祉工場のような雇用型、B型＝現在の授産施設型）・生活介護などの事業を、訓練の目的や要介護度を明確にした事業を行うこととなります。

わが子に障がいや病気がある事は本当につらいことですので、家族は現実と向き合う苦しい時間がかかる上、その後も子どもの成長過程で新しい課題や悩み事にぶつかり、大きなストレスを受けるかも知れません。

ですのでお子さんを育てる場合、障害者自立支援法に沿いながら、本人の将来をイメージし、可能な限り自分のことは自分でできるようになるよう早期から教育・支援を受けましょう。

また、福祉サービスは、大きく分けると「障害福祉サービス事業」と「地域生活支援事業」に分けられます。様々なサービスを上手に利用して、子どもが安全に生活し、幸せに生きていけるよう手立てを考えましょう。そのために、市町村や都道府県は、「相談支援事業所」を設置しています。一人一人違う人間ですので、一人一人に応じた個別の支援とネットワークが必要となります。詳しくは、佐賀県や市のホームページなどで情報を入手するとよいでしょう。また私も出来る限りお力になりますので、ご親戚や知り合いの方などで何か悩んでいる方がおられましたら教えてあげてくださいね。